

11月27日アナリスト向け決算説明会質疑応答（2021年3月期第2四半期決算）

- Q. 下期の営業利益113億円の計画達成に向けて、セグメントごとの進捗など、より具体的に
来期がイメージできる話を伺いたい。
- A. 懸架ばね事業の下期はまだ営業赤字の状況であるが、上期に比べると大きく回復傾向にある。通期で前年度に対して8割程度、3月には9割程度まで生産状況が回復する見込みである。
- シート事業の下期の売上高は概ね前年度下期と同じレベルである。営業利益についてはタイ、中国において製品構成の変化等の影響があるものの、今後大きな変動要因がなければこの数字は達成できると考えている。
- 精密、産機事業については、自動車の生産台数の回復、HDD用サスペンションの台当たり使用数が多い高容量HDD（ハードディスクドライブ）の生産数増加、半導体市場関連も堅調に推移する見通しとなっている。特にHDD用サスペンションは、期初に想定していた数量を概ね達成する見込みである。
- 以上のことから下期の営業利益113億円は達成できる見込みは強いと考えている。ただし、足もとの状況から大きな変化がないという前提である。
- Q. 懸架ばね事業の赤字が続いているが、どのような対策をとり、いつ黒字化するのか。中長期の視点で懸架ばね事業の業績の方向性について教えてほしい。
- A. 懸架ばね事業は、ハンガリー、北米、タイにおいて厳しい状況の中、売価改善活動にも継続して努めている。北米の収支はこの1~2年ほどで黒字となる見込み、ハンガリーも3~4年ほどで黒字化の見通しである。
- Q. HDDサスペンション、半導体分野が好調となっている背景と、来期以降の方向性について教えてほしい。
- A. 半導体プロセス部品は、2018年にシリコンサイクルの急激な減少を受け、2019年の実績が非常に落ち込んだ。2020年は市場成長率が前年比10%以上の回復をみせており、2021年は前工程の製造装置の市場は5%以上の成長をする見込みである。
- HDDは生産数が年々減少しており、今年も減少する見込みである。しかし、HDD用サスペンションの台当たり使用数が多い高容量HDDは増加傾向にあり、2021年も増える見込みである。そのため、今年は全世界のHDD用サスペンションの総需要が昨年度を上回る見通しとなっている。加えて、高容量用HDDは2021年も増加傾向にあり当社のHDDサスペンション事業は2021年度も好調を維持する見込みである。
- Q. 23中計における年間の設備投資レベルについて、概要を伺いたい。
- A. 過去4年間ハンガリーや北米、国内など、多額の投資を行った。しかし、23中計ではそのような大型の投資案件はなく、新たな受注製品に基づくラインの投資等になると考えている。現時点では何とも言えないが、減価償却費の範囲内での設備投資を想定している。
- Q. HDDサスペンション事業において、供給体制にどの程度余力があるのか伺いたい。
- A. 現在、国内では長野県駒ヶ根市、海外では中国とタイに工場があり、全3拠点で生産している。そのうち日本はフル稼働という状況であるが、中国とタイはさらに拡張することも可能である。今後3~5年で数量が増えたとしても、キャパシティの問題で生産できないという心配はない。
- 又、ラインのキャパシティは、ラインの数だけでなく、1つの製品を作るのに何秒かかるかという意味のタクトタイムや稼働率を上げていけば、同じライン数でも生産量があがる。これらを総合的に視野に入れ、対策を取っているためキャパシティについては問題ない。
- Q. HDDサスペンション事業単独での利益率や収益性について伺いたい。
- A. 具体的な数字についてはご容赦頂きたい。サスペンションの変化に技術でトップを走って行けばそれなりの利益率は確保できると考えている。

以上